

回帰に関連した話題

林 篤裕

(名古屋工業大学 社会工学専攻
& アドミッション副オフィス長)

e-mail: hayashi.atsuhiro@nitech.ac.jp



1

【例3】将来予測:直線回帰(外挿)

- オリンピック 100m 走の男女記録：
 - 2156年には女性の方が速い (2004.09.30)
 - Japan Journal LTD の記事
 - 朝日新聞 の記事
- [究極の命題!] 100m に 0.00秒 要する(!?)ようになるのは何時？
- 推定に用いたデータのレンジを越えた部分の予測には注意が必要
 - 同じ性質を保っているのか

2

UK Today BY JAPAN JOURNALS LTD www.japanjournals.com

9/30 オリンピックの100メートル走、150年後には女子選手が男子選手を追い抜く!?

身体の運動能力については、これまで常に男性が女性を上回るとされてきたが、オリンピックの100メートル短距離走記録における男女差が縮まりつつあることを受けて、150年後のオリンピックでは、女性選手の記録が男性選手を超えることもあり得るとする研究結果が発表された。

科学雑誌「ネイチャー」に掲載されたこの研究では、オックスフォード大学の研究者らが、過去のオリンピックにおける100メートル走の男女最高記録の経緯を比較。女性が初めて100メートル走に参加した1928年のアムステルダム大会では、女性の最高記録は男性の10.8秒よりも1.4秒遅い12.2秒だったが、1952年のオリンピックでは、この男女差が1.1秒に縮まり、1988年から2000年の間にはこれがさらに1秒以下にまで縮まったという。

今年のアテネ大会では、100メートル走の最高記録における男女差は1.08秒だったとされるが、このままいけば、2156年には、男性の記録は8.098秒にとどまるのに対し、女性の記録はこれを上回る8.079秒に達することもあり得るとみられている。

ちなみに、これまでの100メートル走最高記録は、女性では1988年にアメリカのフローレンス・ジョイナー選手が出した10.49秒、男性では2002年に、やはりアメリカのティム・モンゴメリー選手が出した9.78秒となっている。

研究報告をまとめた同大学の動物学者アンドリュー・テイテム博士は、女性の運動能力向上の背景には、筋力を鍛えるためのトレーニング法が発達したことがあるとみており、今後、従来の運動能力の限界を乗り越える新たな方法が開発されることもあることから、2064年から2188年の間に女性が男性を追い抜くことは可能と... その確率が最も高くなる

